## ５つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

**小手澤の森**

**第１・３日曜日**

**知足の森**

**第１・３日曜日**

**相模湖・嵐山の森**
**小原本陣の森**
**草莽荘の森**
**不定期活動**

# News Letter

## NPO法人緑のダム北相模
## midorinodam.jp

**No.566-567**
[満員御礼] 夏の体験学校を実施しました

## 【定例活動報告】草莽荘の森

第１日曜日はコロナ対策版一人そうめん流し大会のお手伝いで、各自一本づつ竹林から孟宗竹を切り出して、そうめん流し用の竹を作りお寺の前に集合するというパターンでペア―同志各自の竹を持ちつつ、そうめんを流す役と、そうめんを食べる役とに交代で楽しむという前代未聞のそうめん流しだ、4班に分かれて各ペアが流しそうめん用の竹(4～5m)を竹林から切り出し、半分に割った竹の片方づつを大事に節などの処理を行い早いもの順に4口に分離された水道口に竹のレーンをセットし一人がそうめん流し役、一人は食べる役、大人は零れたそうめんを流し役に届ける役となりあっという間にそうめん流しは終了した。終了後山の様に積まれた長い竹の処分を考える大人達。私は足ふみ竹用に50㎝位に切った竹を我家に持ち帰った。考えようでは、竹林整備＋そうめん流し＋足ふみ竹が一度に楽しめる奇想天外な夏の作業だったと思う。

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

第３日曜日の体験学校の私の担当は、県立深沢高等学校生15名の恒例になったインターンシップの受け入れだ。前日からの雨模様も心配されたので相模湖公民館にて座学の準備も行ったうえでの当日であった。9時に相模湖駅に一人遅れて集合若干の早朝からの雨はあったがこれからは上がりそうであった。

慣れた学芸大附属の子供20人と高校生15名の大所帯で歩いて長福寺の裏山にむかった。子供たちは昨日も川遊びなどがあっての今日である。

間伐体験は高校生にとっては初めてのことなので、緑のダムの中学生以上の子供たちにもお手伝いをお願いして、インターンシップの高校生を2班に分け檜を二本づつ間伐行った。その後は日本の林業と神奈川県の山と川など水についての講義をさせて頂いた。

昼食を小原の郷で摂った後、檜のコースター作り、竹クラフトなどを行ったあと15名が怪我無くバスで相模湖駅まで行き帰路についた。

小林　照夫（本会、理事）

# 【定例活動報告】知足の森

８月第１は小林さんの報告にありますように、GTEラボの中学生を中心にコロナ対策セルフ流しそうめん大会を実施しました。これは、自分で切った竹が自分専用レーンになり、そのレーンには自分のそうめんしか流れない究極的に安全な流しそうめん大会です。ただし人数分レーンが必要ですが。第３は恒例の土日を活用した相模原市内小学生向けの体験学校を実施しました。いずれも大学生が企画準備し、中学生が当日運営を行いました。

今日は相模原市の小学生と沢に行きました。午前中はみんなで沢を歩き、小さな滝をみんなで登ってからお昼ごはんを食べました。最初は緊張していて、みんなが楽しめるように話しかけたりすることができるか不安だったのですが、グループになって沢を歩いているうちに自然に話しかけることができたのでよかったです。私のグループには仲良しの三人組がいて、三人で協力しながら歩いていたので、楽しそうでよかったです。午後は滝に行くグループと、残って遊ぶグループなどに分かれました。小学生は滝に行った子が多かったようでした。残るグループでは、みんなで沢に石や砂利を積んだりしていました。最終的に沢の流れが結構変わっていたので驚きました。私は小学生の子と水を掛け合ったりして遊びました。その子はみんなと離れたところにいたので少し心配だったのですが、自分なりに楽しんでいたようなのでよかったなと思いました。

私の今回の反省点は積極的に小学生と関わったりすることができなかったということですが、手助けするポイントと見守るポイントを考えるということはできたので、これからの小学生や小さい子供たちと関わる活動などで生かしていきたいと思いました。

GREEN TECH ENGINEER LAB 中学２年生女子

今日は小学生に木の切り方を教えました。私のチームが担当したところは崖のような場所だった上、前日に雨が降っていたためとても足場の悪いところでした。足を踏み外さないか心配だったし、小学生と同じ目線に立って教えるスペースがなかったため、とても難しかったです。

特に難しかったのは、受け口の完成形を伝えることです。どんな形をしているかいい例えが思いつかず、ジェスチャーで教えたので想像しにくかったと思います。そのとき、私が一年生のとき、初めて受け口を作るときもよくわからなかったな、と思い出しました。はじめて切るときはどうなるのかよくわからないまま切っていて、切り終わった後にはじめて分かったので、分かるまではあまり楽しくなかった記憶があります。でも、想像できている今は、切り終えたあとに達成感があり、楽しいです。切り終わった受け口や、木の年輪を見て笑顔になった小学生をみて、とても嬉しくなりました。

GREEN TECH ENGINEER LAB 中学２年生女子

# 桜井尚武の森のコラム

# 「スダジイ (*Castanopsis sieboldii*)」

図1 互生２列の葉と裏面

20070528日大藤沢

図2 堅い殻斗

202010073汐入公園南千住

図3 熟した堅果

20201013汐入公園南千住

図4 大きなスダジイ

20180906国立東京博物館

ブナ科シイ属の常緑高木で樹高25m、直径150cmにもなります。葉は左右2列に互生し、裏面は銀褐色の金属様の光沢を呈する細かい鱗片に覆われています(図1)。全縁か上部に鈍い鋸歯を生じ、先端は尾状に細長く延びます。雌雄同株で5月下旬頃雄花・雌花ともに斜上する穂状花序を当年枝の葉腋に発生する虫媒花です。堅果は先が尖った長楕円形、落下する直前まで硬い凹凸のある革質の総苞に包まれ(図2)、充分に成熟すると総苞の先端が3裂して包まれていた堅果が落下します(図3)。堅果の成熟には2年かかります。福島県以西の暖帯に広く分布し、沿岸部の常緑林で優占種・極相種となる重要な種です。大木は樹冠を大きな伏せたお椀状に展開させて目立ち、黒味を帯びた樹皮を持つ幹は太くなるので地域の記念樹にされているのをよく見かけます(図4）。

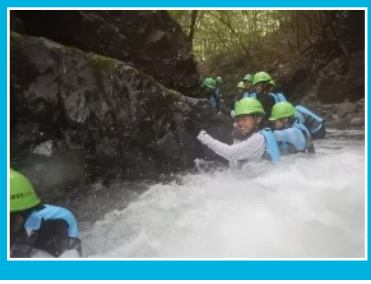
シイタケ栽培の原木はもとより器具材、建築材に使われますが、比較的若い40年～50年頃に心材の腐朽が見られるものがあり、材としての評価はあまり高くないようです。かつて広葉樹の新用途開発の研究をしていた時に九州地域からの報告で比較的若いスダジイ林の50%以上に心材腐朽が見られたというのがあり驚いたことがありました。この原因が萌芽由来の林分であった（スダジイ林の多くは薪炭林に供されて収穫後は萌芽による天然更新のものが多い）ためかどうか突き止められませんでしたが、材の評価の低い理由の一因のようです。同属の近縁種に葉や堅果が少し小さいツブラジイ（コジイ　*C. cuspidata*）がありますが、これは西日本に多く関東地方では滅多に出合いません。なお、両種の違いは明確でなく同種としてシイ（*C. cuspidata*）とすべきだという説があり、こちらの方が優勢です。

果実はドングリです。このドングリにはタンニンが少なくそのままで生食できるので、採集生活をしていた時代には重要な食糧源だったと考えられています。甘くて柔らかい現代の菓子に慣らされている子供達には、少し変わった身近なナッツだと喜ばれることがあります。

桜井　尚武（本会、会員）

# 【GREEN TECH ENGINEER LABの活動から】

コロナが少し収束の様子、といっても感染者数はかなり高い推移でしたが夏のイベントは例年に近い形で実施できました。参加した中学生の意見を中心にご紹介します。



**小菅村研修合宿も今年１０回目！**

私は小菅村で貴重な体験をたくさんしました。1つは農業の体験。1日目は草取りとじゃがいも掘り、2日目はマコモダケの草取りと、2日続けての作業となりました。草取りとじゃがいも掘りは炎天下の中、虫に刺されないために長袖を着ました。暑い中での作業は辛く、しかも、草を根こそぎ取るのは力が必要ですが、かと言って力をかけすぎると葉だけ取れてしまうので力のコントロールが難しく、苦戦しました。しかし、草取りが一段落したあとに一斉に芋を掘るのはとても爽快で、次々出てきて楽しくなりました。青柳さんによると、その時掘った芋は米の育ちにくかった小菅村ならではのものだそうで、「落合いも」という名前だそうです。名前にも由来があるらしく、芋の歴史を感じました。2日目はマコモダケの草取りをしました。長靴とツナギが一体になったような格好をするのですがその格好がとても暑く、滝のように汗が出ました。しかもマコモダケが生えている場所が水田なので泥が足にまとわりつき、なかなか前に進めず、それでいて後ろにも進めなかったりと「歩くコツ」をつかむのに苦労しました。コツをつかむと簡単に移動でき、外よりも水田のほうが涼しいので快適に草取りができました。それでも泥の抵抗ですごく力を使うので疲労がたまりました。2日間の農業体験を通して、私は農家の方々の大変さを知りました。農家の方々は高齢の方が多いと聞くのでその苦労は若い私達を上回ると思います。どうにかしてその苦労を無くす方法はないのかな、と思いました。

私の2つ目に貴重な体験は沢に入ったことです。沢に入る前からかなり水遊びをしてしまい、すでに全身ビチョビチョだったのですが、沢に入ってみるとさらに体中びしょ濡れになりました。というのも、沢を下るときに足元のゴツゴツした岩につまずき、流されてしまったり、自分の背丈くらいの沢にハマったりしてしまったからです。いきなり大きな岩があったり、いきなり底が深くなるなど危険を感じる瞬間が多々ありました。最初はあまり危険でなさそうだなと感じていたので自分の思考と現実のギャップにびっくりしました。これから私は川に行くことがあるかもしれませんが、自然への恐れを忘れずに行動したいと思いました。

このように私は小菅村で様々なことを学びました。小菅村ののんびりした雰囲気の中でも農家の方々が頑張っていることを知れたり、自然の恐ろしさを感じたりと、二泊三日と短い中でも小菅村の面白さが分かりました。機会があればまた、小菅村の合宿に参加したいと思います。

GREEN TECH ENGINEER LAB 中学１年生女子

私は今回の合宿でたくさんの思い出を作ることができました。特に印象に残ったのは、2日目に体験したマコモタケの草取りです。胴長という作業着を着て水田に入り草を取っていきました。水田の中はとても歩きにくく、何度もつんのめってしまいました。けれど、慣れていくと歩くのも早くなってだんだん楽しくなっていきました。また、何度も転んで流されそうになった川下りや汗でびっしょりになったジャガイモ掘り、岩や苔で滑った山登りも大切な思い出の一つです。夜には火起こしをしてバーベキューをしたり、花火をして遊んだりすることもできました。たくさん運動してクタクタになった後のご飯はすごく美味しかったです。

合宿中はもちろん、合宿に行く前、合宿から帰ってきた今もとてもワクワク、ドキドキしています。今回、貴重な体験をさせていただいた小菅村合宿の皆さんにはとても感謝しています。また来年も行って楽しい思い出をたくさん作りたいです。

GREEN TECH ENGINEER LAB 中学１年生女子

小菅村での、２泊3日の合宿に参加しました。小菅村は、周りを山に囲まれていて、空気がとても気持ちいい場所でした。寺子屋自然塾に宿泊しました。エアコンがありませんでしたが、涼しかったため快適でした。

一日目は、ジャガイモ農家に行って、ジャガイモを掘りました。まず、周りに生えている草を取りました。そのあと、枯れた茎を目印にしてジャガイモを掘りました。一つの場所から十数個もとれて、とても楽しかったです。お風呂は、小菅の湯に行きました。作業後のお風呂はとても気持ちがよかったです。夕飯は、バーベキューをしました。自分たちで火を起こして、お肉や、野菜を焼いて食べました。一日目、僕たちは、火おこしにとても苦戦して、食べ始めたのは、みんなが食べ終わった頃でした。夜は、みんなで雑談や、カードゲームを楽しみました。僕が寝た場所は、避難口の近くで光がついていたので、虫がたくさん寄ってきてしまいました。

二日目は、午前中はマコモダケの雑草取りをしました。胴長を着て、沼に入り、草を取りました。とても動きづらく、疲れました。マコモダケは、根だけではなく、草の部分も、お茶にできると聞いてすごいなと思いました。午後は、川のぼりをしました。川の水は冷たく、とても気持ちがよかったです。最初の方は、川幅も広く、流れもそこまで早くなかったのですが、上流のほうへ上がっていくと、川底は岩でごつごつしていて、流れも速くなり大変でした。流れに乗って泳げたので、とても楽しかったです。お風呂は、一日目と同じ、小菅の湯に入浴しました。夕飯も、一日目と同じ、バーベキューをしました。焼きそばを作りました。今回は失敗を生かして、一発で火を起こすことができました。とてもおいしかったです。夕食後は、みんなで花火をやりました。山に囲まれていて、逆に人工物が珍しい小菅では、とても暗く、花火がきれいでした。

三日目は、山の中にある、旧観音や音無の滝、ワサビを見に行き、途中の道を整備しました。午後は、道の駅でお土産を買い、ゆっくりしました。

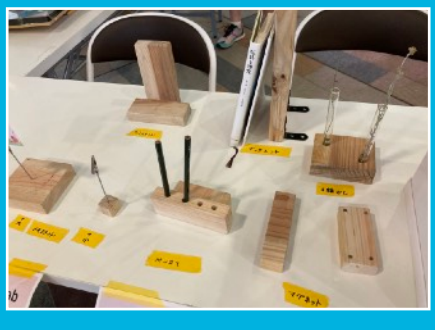
この三日間で、貴重な体験を、いくつもすることができました。とても充実した合宿でした。全体を仕切ってくださったり、手伝いをしてくださった、大学生、先生、現地の方々、そして僕たちのためにこの企画を用意してくださった観光業の会社の皆様に、とても感謝しています。また来年も参加したいなと思いました。

GREEN TECH ENGINEER LAB 中学１年生男子

**ソコラ武蔵小金井クロスにて**
**木工体験ブースを出展**

今日は武蔵小金井駅のソコラの縁日に参加しました。出店側での参加だったので、最初はアタフタしていましたが、終わりが近づくにつれ、慣れていきました。

私は準備をもう少しちゃんと考えておけば、片付けたり持って帰る時楽だったかなと考えられたり、（主に小さい子が来てくれたので）わかりや



すく伝えることや小さい子との関わり方などを学べた良い機会だったと思っています。
　Miracle Labの子供たちも手伝ってくれて、とても楽しかったです。最後のアイスはたくさん働いた分すごく美味しく感じました！
　縁日で出店するにあたってたくさんの方に手伝っていただいたので、楽しくできて本当に感謝しかありませんでした！ありがとうございました！また来年もできたら嬉しいです！
　その時は今回反省点として挙げられた準備、本当に必要な物を持っていくことなどを活かせるように意識したいです。

GREEN TECH ENGINEER LAB 中学２年生女子

**小金井市環境政策課の企画「ウッド×デジタルファブリケーション」講座も制作物が完成**

　小金井市在学在住の中学生（いつもの学大附属生は除く）で募集、実施されました本企画も夏休みを利用して、本会の活動で切り出した間伐材で制作を行い、市役所を中心に寄付をすることができました。主な制作物は、市役所カウンターで順番を待つためのベンチ、カウンター上のチラシラックやチラシストック用ラック、さらに市内の環境楽習館という施設への案内板、保育園の園庭用のすのこなどです。この後、市主催の贈呈式がありますのでそちらもまたご報告します。

## NPO法人
## 緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
　　積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
　　コンサベーション・アライアンス・ジャパン
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
　　東京学芸大学環境教育研究センター、
　　（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
　　（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

### 参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

### 危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　CAJ Conservation Alliance Japan 一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン